

# 「自己チェックシートに基づく本学 の取り組み評価からの知見」

千葉商科大学 商経学部  
教授 奥寺 葵

# 自己チェックシートの活用のために



## ○ 他大学も活用しうる自己チェックシート

💡 **チェック項目数を減らし簡素化すること。**

→回答者となる大学にとって学内の情報収集および回答に相当の時間を要するため。



USR活動評価に取り組むことへの1つのハードルに。

# 本学での調査（ゼミ生による）



方法：学生による関係部署への聞き取り調査

期間：2022年11月～2023年1月

# 調査結果(1)



自己評価/経年変化の把握

※すでにある指標（就職率や授業満足度、退学率など）に加えるものとして

2021年度	2022年度	2023年度
--------	--------	--------

1. 全般			
1-1.専任教員数（学部・大学院）	人	719人	人
1-2.在籍学生数（学部・大学院）	人	6424人	人
1-3.教職員および学生のSDGs認知度	%	%	%
1-4.USRレポート/サステナビリティレポート/統合レポートといった、非財務情報を開示するメディアをもっているか	有/無	有	有/無
1-5.大学案内ツールにUSR/SDGsへの取り組みに関するページがあるか	有/無	有	有/無
2. 研究教育			
2-1.SDGs関連科目数	科目数	科目数	科目数
2-2.SDGs関連研究予算	0円	0円	300万円
2-3.教員が参画するSDGs関連研究プロジェクト数	件	173件	件
2-4.SDGs関連学生プロジェクト数	件	6件	件
2-5.SDGs関連学生プロジェクトから生まれた商品/サービス数	件	6件	件
2-6.教員が参画するSDGs関連研究プロジェクト（2-3）とSDGs関連学生プロジェクト（2-4）の内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。	Goal数	Goal数	Goal数
2-7.教員が参画するSDGs関連研究プロジェクト（2-3）とSDGs関連学生プロジェクト（2-4）のうち、産/官/民と連携して実施しているプロジェクト数	件	件	件

# 調査結果(2)

3. コロナ禍の学生生活の改善（消費者課題）			
3-1.授業満足度	47.45%	47.3%(春)	%
3-2.IT環境の整備状況：学内クラウドが整備されているか？	無し	無し	有/無
3-3.IT環境の整備状況：LMS（学習管理システム）を始めとするオンライン講義用ツール・環境が整備されているか？	有	有	有/無
3-4.（授業外）人間関係づくりのための学生交流イベント数	1回	2回	回
3-5.（授業外）人間関係づくりのための学生交流イベントのうちオンラインによる実施回数	0回	0回	回
3-6.（授業外）人間関係づくりのための学生交流イベントの参加者数	551人	1610人	人
3-7.図書館のオンライン蔵書検索機能および文献ダウンロードサービス	有	有	有
3-8.図書館利用者数（2022年度11月時点）	66,849	60,715	人
3-9.学内で開講している資格講座数	15個	15個	個
3-10.学内で開講している資格講座のうちオンラインで受講可能な講座数	個	1個	個
3-11.学内で開講している資格講座の修了者数	人	14人	人
3-12.学内で開講している資格講座の学生認知度	100%	100%	%
3-13.キャリアイベント数	45	33	回
3-14.キャリアイベントのうちオンラインで参加可能なイベント数	21	6	回
3-15.キャリアイベント参加者数	11196	6780	人
3-16.キャリアイベントの学生満足度（取得していないイベントがあるため回答なし）	%	%	%

# 調査結果(3)



4. コロナ禍の地域社会との繋がり			
4-1.大学/教員が機会提供する社会活動（ボランティア等）への参加学生数（延べ人数）	32人	70人	人
4-2.その活動内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。	Goal数16	Goal数12	Goal数
4-3.リカレント教育講座の修了者数（延べ人数）	14人	12人	人
4-4.それらリカレント教育講座内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。	Goal数 17	Goal数17	Goal数
5. 環境問題への取り組み			
5-1.廃棄物の廃棄量/年（キャンパスが複数ある場合は総量）	71.184t	t	t
5-2.リサイクル（資源回収）量/年（キャンパスが複数ある場合は総量）	29.739 t	t	t
5-3.年間エネルギー使用量（電気やガスの総量、J（ジュール換算））	38,455GJ	GJ	GJ
5-4.年間水使用量（上水や中水の使用総量、井戸・地下水を利用している場合は、その使用総量）	25,073m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>
5-5.教職員や学生が知る機会はあるか？（入学前・後）	有/無	有/無	有/無

↑一部ある（電気ガスのみ）

# 調査から得られた知見

・調査期間に3カ月要した理由

- ① 学内の関係部署への照会、情報集約、データの追加収集、回答内容の確認・承認等。
- ② “回答しにくい質問内容”、という声も。



このままの質問項目では、自己チェックシートが活用されにくいという大きな課題が明らかに。

# 回答しにくい質問項目



1-3) 教職員および学生のSDGs**認知度**

2-4) SDGs関連学生プロジェクトの**数**

2-5) SDGs関連学生プロジェクトから生まれた商品/サービス**数**

2-6) 教員が参画するSDGs関連プロジェクト**数**

2-7) 産/官/民と連携して実施しているSDGs関連プロジェクト**数**

4-1) 大学/教員が機会提供する社会活動への参加学生**数**

5-5) 環境問題への取り組みについて、教職員や学生が知る**機会**はあるか。



# 「自己チェックシート」をより発展させる ために

各大学が自らの取り組みを自己評価・改善してUSR活動の質を高め、内外に情報発信することに使われるためには、さらに回答しやすい質問項目にするように再検討を行うことが必要である。 **回答者との共同作業の必要性。**